

設問主旨

設問 1

イギリスの産業革命についての重要な論文の要旨を的確にとらえられているかを問う問題。

① 産業革命期にジェンダーによる分業がどのように変化したのかを問う。

採点基準

- △ 産業革命期に女性労働者の数は減少していない。とくに、産業革命をけん引した綿産業や陶磁器産業においては女性労働力が主要な労働力となっていた。
- ✓ これまで男性中心のデータから解釈されていた産業革命期の経済状況は当時主要な労働力であった女性や子どもを不可視化しており、再検討が必要である。

② 労働者としての女性の評価がどのように変化したのかを具体的に読み取ることができるのかを問う。

採点基準

- ✓ 女性は skill を失ったわけではなく、評価基準が変化した。
- △ 労働の評価基準が男性主体のものに変化していったため、女性の労働が評価されにくくなっていった。
- △ 女性が経験などによって獲得した skill も女性に備わった特性として skill とみなされなくなったため、女性たちの skill が不可視化されていった。

③

イギリスをはじめとする近代社会において女性労働力がどのように周縁化されていったのかの理解や、前提となる知識を問う。また、19 世紀以降イギリスおよびイギリス帝国社会に広がる「分離領域」概念と実態がどのように乖離していたのかを答えさせることで、歴史的な手法から社会の構造を読み解く力があるかを問う。

・分離領域はごく限定的な階層にのみ実現可能な規範であり、実態とはかなり乖離していた。

- ✓ イギリス社会においては大半の女性たちが賃金労働に従事していた。
- △ 女性は本来労働すべきではないという理念が浸透していたことや、男性主体の評価基準の浸透などにより、女性の労働の不可視化が進行した。

② [Redacted]

[Redacted]

[Redacted]
[Redacted]
[Redacted]
[Redacted]

[Redacted]
[Redacted]
[Redacted]
[Redacted]
[Redacted]

[Redacted]
[Redacted]
[Redacted]
[Redacted]
[Redacted]
[Redacted]

[Redacted]
[Redacted]

- | [Redacted]
- | [Redacted]
- | [Redacted]
- | [Redacted]

